

[研究区分：学部戦略プロジェクト研究]

研究テーマ：人間文化学部の中期計画達成と次期中期計画構築のための包括的研究	
研究代表者：人間文化学部 教授・樹下 文隆	連絡先：kinosita@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：教授・丸山浩明 他 国際文化学科 7名、 教授・杉山寿美 他 健康科学科 6名	
【研究概要】 平成 26 年度の学部再編を控えて、両学科の中期計画達成に向けたこれまでの取組を総括し、次期中期計画で取り組む予定の重点課題遂行に向けて必要な準備を行った。再編計画は見直しとなったものの、それぞれの学科における中期計画達成に向けた取組の総括、次期中期計画での重点課題策定については、一定の成果を得ることができた。	

【研究内容・成果】

中期計画の最終年度にあたる今年度は、次期中期計画の始まる来年度に向けて、両学科が取り組んできた課題を高い水準で達成し、次期中期計画において重点課題とした取り組みに資するための必要な体制を構築していく必要があった。そこで、これまでの学部プロジェクト研究の成果を踏まえ、各学科が重点的に取り組むべき学部プロジェクト研究として、学部長がそれぞれの学科に以下の研究課題を設定した。

1. 異文化コミュニケーション能力向上のための語学検定試験を指標とする語学教育システムの確立と国際理解教育充実のための国際交流への意欲を喚起する教育システムの構築（国際文化学科）

●コミュニケーション力、外国語運用能力の調査研究については、下記を実施した。

- ・平成 24 年 7 月 31 日 TOEIC 平均点 529 点
- ・平成 24 年 9 月 15 日 韓国語能力検定 初級 1 名、高級 1 名合格
- ・平成 24 年 11 月 25 日 中国語検定 4 級 9 名、3 級 5 名合格
- ・平成 25 年 2 月 1 日 TOEIC 平均点 523 点

これらの成果及び昨年度までの調査研究の成果に基づき、国際文化学科の英語力の現状を把握し、達成目標を検討した。重点研究終了後も学生に英語学習を促す動機付けの一つとして、平成 25 年度より検定英語 I・II の科目新設を検討した。

次期中期計画にこれまでの語学検定受検動向を反映して、TOEIC 目標数値達成者、中国語検定合格者の割合を努力目標として設定した。また、検定英語 I・II について、単位認定基準を決定した。

●国際交流実践者、海外生活経験者を招いて公開講座、オープンセミナーを実施し、学生の国際理解度の向上、国際交流や留学への意欲醸成を図った。異文化理解講座として、下記を実施した。

- ・平成 24 年 7 月 11 日「幸福度世界一の国 その社会背景と教育事情」
(講師：高田ケラー有子氏)
- ・平成 24 年 7 月 30 日「今、自分にできる国際協力ー
ODA・NGO・市民活動における支援・協力のカタチー」(講師：山田貴子氏)
- ・平成 24 年 10 月 4 日「異文化交流——あなたはこの質問に答えられますか？」
(講師：堀益芳子氏)

●ハワイ大学マノア校での短期語学研修に参加する学生の引率を兼ねて教員を派遣し、交流

促進に向けた協議を行うことができた。

2. 健康科学教育プログラムに基づき、『「予防医学」が健康科学科の柱』の考え方を内外に発信するためのセミナーの実施（健康科学科）

●共通機器の外部の企業への使用促進

健康科学科では、共通機器の外部使用の促進を目的に、機器のメンテナンス及び機器使用マニュアルを整えた。平成 24 年度は、ネスレ株式会社およびフードケア株式会社から機器使用依頼があり対応した。

機器の地域開放および研究成果の地域への還元を目的とし、広島県の中所企業の製品開発のサポートをおこなうため、学科所有の機器の整備およびマニュアルの作成を行った。整備およびマニュアルを作成した機器は、エムシーファン HR300（担当：菅原）、ハーケレオストレス 6000（担当：杉山）、ガスクロマトグラフィー質量分析計（担当：谷本）、UPLC アミノ酸分析（担当：馬淵） クリープメータ（担当：山縣）である。

●研究成果の地域への還元

- ・未病フォーラムの開催

平成 24 年 10 月 20 日（土）広島県立総合体育 大講義室にて開催（参加費無料）

吉川峰加先生（広島大学）「摂食・嚥下を考える—いつまでも美味しく美しく 口から食べる」
中野誠先生（広島市民病院）「誤嚥性肺炎と口腔ケア」

市民公開講座として、未病フォーラム広島を平成 24 年 10 月 20 日（土）広島県総合体育館にて「口腔機能と未病」のテーマで、健康科学科栢下・山縣と共同研究を行っている広島大学の吉川峰加先生と広島市民病院中野誠先生に講師に招き研究成果を一般市民に公開した。市民約 70 名の参加があり、各先生の講演後は、ご自分やご家族のことについて活発に質問があった。質問内容も医療関係者の目線とは全く異なり有意義であった。

- 卒業研究発表会を平成 25 年 1 月 25 日（土）に一般に公開する形で実施した。学外から 10 名程度の参加があり、学生の発表に対し活発な質疑が行われ、学生にも大変刺激になる発表会となった。

以上、国際文化学科の取り組みにおいては、次期中期目標の数値化を実現することができた。また、語学学習をカリキュラム上で単位化するシステムを構築できた。

健康科学科では、本重点研究の目的を、機器の地域開放および研究成果の地域への還元とした。機器については地域開放の準備を行い、研究成果の発表としては2つのイベントを行い、当初の目的を達成した。